

令和 3 年 6 月 4 日現在

機関番号：13301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2020

課題番号：18H05577・19K20786

研究課題名（和文）3D言語地図による漢語徐州方言の地域差・世代差に関する社会言語地理学的研究

研究課題名（英文）A Sociolinguistic Geographical Study on Regional and Generational Differences in the Xuzhou Dialect of Chinese Using 3D Linguistic Maps

研究代表者

日高 知恵実（Hidaka, Chiemi）

金沢大学・人間社会研究域・客員研究員

研究者番号：70825174

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中国江蘇省徐州方言のデータをもとに、実際に「3D言語地図」の作成した上で、この地域の方言の実態および動態を社会言語地理学的観点から分析したものである。従来型の平面的な言語地図では、通常一枚の地図に同世代の言語データのみを並べるが、Z軸に世代差を設けて三次元化したことで、ことばの地域差と世代差を直感的・視覚的に捉えることが可能となった。分析を通じ、この地域における「東西対立」や「等語線」、同音衝突を回避するための「相補分布」の存在、また言語変化の実態や新たに生まれた方言語形なども明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果の学術的意義は次の2点である。（1）地域差と世代差を同時に示す「3D言語地図」の作成を試行することができた。これは言語地理学的研究の発展に寄与できるもので、Z軸の空間に複数の要素を積み重ねた「複合的3D言語地図」の実現に繋がる一歩となった。（2）中国の漢語方言研究は日本の方言学のように地域差・世代差の両面から言語変化を考察する研究が未だ少ない。本研究では多人数調査によって得られた言語データをもとに、これを実践した。その結果、分布の特徴や現在進行中の言語変化の特徴について言及することができた。

研究成果の概要（英文）：This project attempts to create a “3D linguistic map” based on the data of the Xuzhou dialect in Jiangsu Province, China, and to analyze the actual and dynamic states of dialects in this area from the perspective of sociolinguistic geography. The planar linguistic maps usually contain data of the same generation on a single map. However, by setting the Z axis, which is the layer representing generational differences, and making it three-dimensional, it became possible to grasp the regional and generational differences in language both intuitively and visually. Through this analysis, we can also identify some cases in this area, such as the East-West distribution, isogloss, geographically complementary distribution to avoid homonymic clash, and transformations into new word forms.

研究分野：中国語学

キーワード：漢語方言 3D言語地図 言語地理学 社会言語学 地域差 世代差 言語変化 徐州

1. 研究開始当初の背景

「言語地図」とは、ことばの地理的な分布を地図上に示したものである。その作成は言語地理学(方言地理学)的研究の基礎となる。通常、一枚の言語地図に描かれるのは「複数地点における同世代のインフォーマントの言語データ」であり、その分布状況を分析することで、ことばの変化の諸相を検討する。各地点のインフォーマントはその土地で生まれ育った老年の男性とすることが多かった。これは、外部の干渉を受けていない典型的な方言を採録するためであるが、そこにはある程度の恣意的な選択が入り込んでいた。

こうした状況に対し、ことばの変化を地域差と世代差の両面から明らかにしようとする動きが日本の言語地理学の中から現れ、その結果、1969年に新潟県糸魚川で実施された調査研究において、「グロットグラム」と呼ばれる地域差×年齢差の表が採用された。ただしこれは、沿岸部や河川・道路・鉄道沿いなど、人々の行き交いが想定される一線上の地域におけることばの伝播状況を考察するには適しているものの、東西南北に広がる一定の地域の地域差・世代差を俯瞰するには不都合が多い。

さらに中国の漢語方言研究に目を移すと、日本の方言学のように地域差・世代差の両面から言語変化を考察する研究が未だ少ないという現状がある。中国では近年の急速な社会環境の変化に伴い、今まさに各地域の方言にも新たな変化が起きている。

そこで本研究では、漢語方言を研究対象とし、ことばの地域差と世代差を同時に可視化するための新たなシステム「3D言語地図」の作成を試みた。

2. 研究の目的

本研究は、中国江蘇省徐州方言のデータをもとに、実際に「3D言語地図」の作成した上で、この地域の方言の実態および動態を社会言語地理学的観点から明らかにすることを目的とする。

「3D言語地図」を導入する理由は、従来作成されてきた平面的な言語地図に、時間軸すなわち世代差をZ軸として加えることで、ことばの重層性を直感的・視覚的に捉えることが可能になるからである。

漢語方言の中でも徐州方言を研究対象とした理由は、徐州一帯が複数の方言区の隣接する地域であり、また古くから交通の要地として知られるように、京杭大運河や縦横にのびる鉄道が走っていることから、外部方言との接触も想定され、漢語方言研究において学術的意義の大きい地域だと考えられるからである。

3. 研究の方法

(1) 江蘇省徐州市出身の徐州方言話者を対象に、現地にて方言調査を実施し、バリエーションの出現が予測される約50の音声・語彙項目のデータを収集した。

(2) 収集したデータを整理した。具体的には、インフォーマントの社会的属性に関するデータの入力、「Audacity」を用いた音声ファイルの切り出し作業および方言記述を指す。

(3) グラフ作成・データ分析ソフトウェア「Origin」を用いて「3D言語地図」を作成した。「Origin」の3Dグラフは、立体地形図・地質図や3D散布図を描く機能が備わっていることから、「地層言語学」の異名を持つ言語地理学においても大いに活用できると判断した。地図作成にあたっては、株式会社ライトストーン社のスタッフから助言や協力を受けた。

(4) 収集し整理したデータを「3D言語地図」で表示し、徐州方言の実態および動態について考察した。

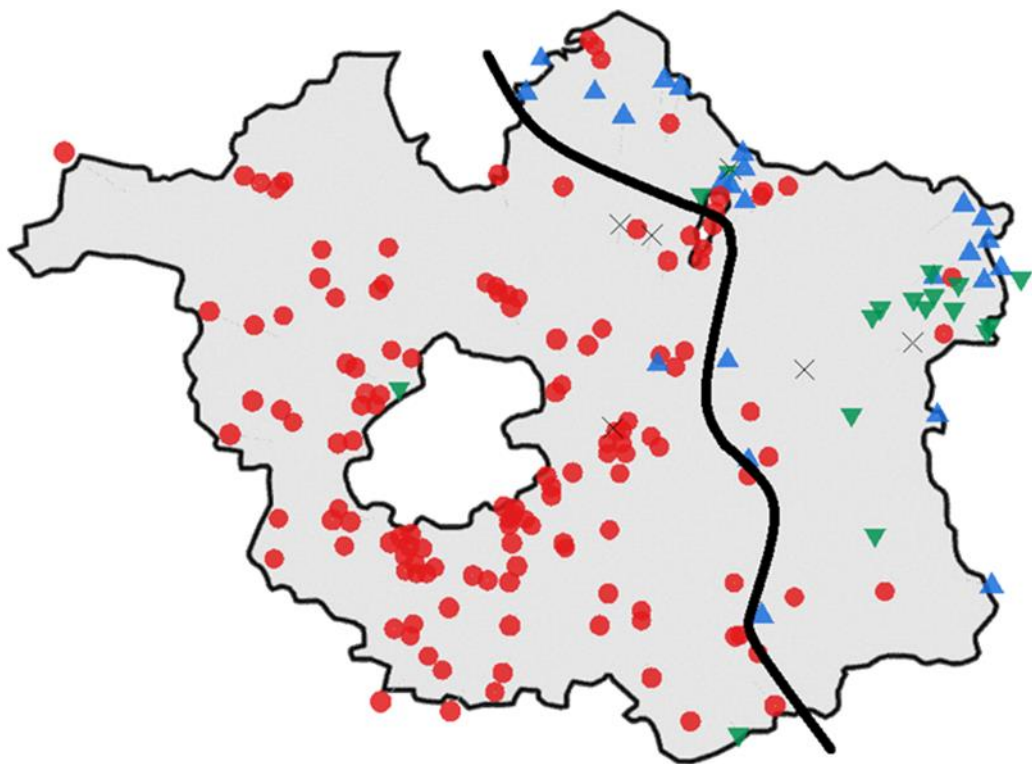
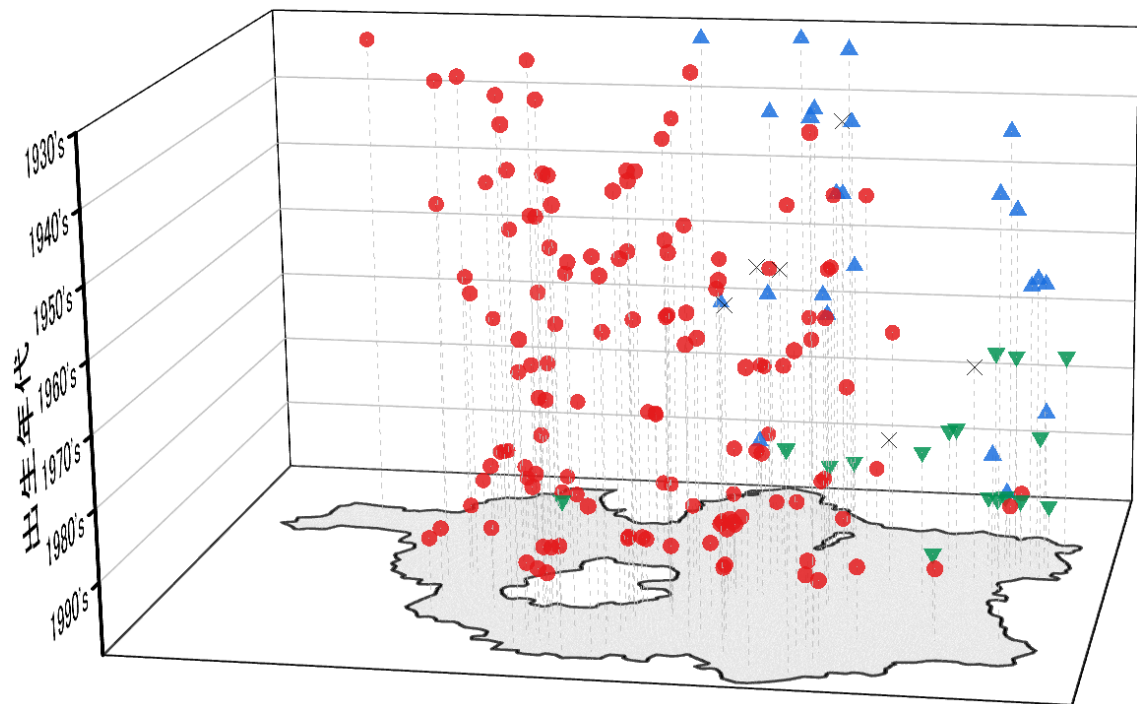
4. 研究成果

本研究の最も大きな成果は、「3D言語地図」を実際に作成し提示できた点にある。

ここでは徐州農村部出身者から得られたデータをもとに作成した「3D言語地図」を一例紹介する。項目は「祖父の呼称」である。

底面に敷かれているのは徐州市の簡略図(中心の白抜き部分は都市部)で、その上部に182名の言語データをプロットしている。座標はインフォーマントの出身地と出生年代によって定めた。●▲▼×といった記号はインフォーマントから得られた回答に基づいて割り当てたもので、●は“爺”類(135名)、▲は“老爺”類(24名)、▼は“老”類(17名)、×は無回答(6名)を表している。今回作成した「3D言語地図」では、上から順に1930年代～1990年代生まれの7つの層を設けて提示した。

こうして「3D言語地図」を作成して見ると、この地域では東と西で異なる語形がせめぎあって分布していることが確認できる。上から見ると、いわゆる「東西対立」と呼ばれる分布状況ははっきりと確認でき、「等語線」を引くことができる。また、東の地域では地図の上半分に▲、下半分に▼が分布しており、世代差が見受けられる。つまり、1930～1960年代生まれでは主に▲“老爺”、1970～1990年代生まれでは主に▼“老”が現れることから、同一地域において“老爺”>“老”といった第二音節の脱落による語形変化が起きていることが読み取れる。



2019年11月に開催された「日本地理言語学会」の第1回大会では、この「3D言語地図」を360度回転させて提示し、地域差と世代差の両面からこの地域の方言の実態を分析した。本報告書では、スクリーンショットを掲載するにとどめるが、今後専用のWebサイトを開設し、多方面から観察できる動画形式の言語地図を随時紹介していく。

これまでは技術的な制約により実現しなかった「3D言語地図」も、現在では情報処理技術の発展や普及により、実現できる環境が整ってきた。将来的には本研究の成果を一つのモデルとして、より広範囲の地域を対象としたシステムを構築し、さらにGIS（地理情報システム）と連結することで、ことばの重層性と地形情報や交通網など「言語外情報」との関係性を分析する基盤をつくりたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 日高知恵実	4. 巻 6
2. 論文標題 “3D言語地図”的绘制 以徐州方言的“蝉”和“蝉的幼虫”為例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Collected Papers on Eastern Asian Geolinguistics, Studies in Asian Geolinguistics, Monograph Series No. 6	6. 最初と最後の頁 pp.145-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 日高知恵実
2. 発表標題 徐州市城郷方言的比較研究
3. 学会等名 国際城市語言学会第十七届学术年会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日高知恵実
2. 発表標題 3D言語地図を用いた中国江蘇省徐州方言の社会言語地理学的研究 祖父母・外祖父母の呼称について
3. 学会等名 日本地理言語学会第一回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日高知恵実
2. 発表標題 現代徐州方言の知・莊・章組字における非捲舌音化とその特徴
3. 学会等名 日本中国語学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------